

# 図書館だより

市川市立大野小学校 日向美智留

サンタクロースっているんでしょうか？

子どもはだれもが（こう思い）、一度はおとなに聞いてみたことがあるでしょう。皆さんは何と答えましたか？

8歳のバージニアからの手紙と、それに答えるサン新聞の記事が1897年9月21日に掲載されました。100年以上たった今でもクリスマスの季節に世界中で語り継がれています。

以下、抜粋を紹介します。

## サンタクロースって いるんでしょうか？

子どもの質問にこたえて



訳者 中村妙子(なかむら たえこ)

画家 東 逸子(あずま いつこ)

きしやさま

あたしは、八つです。

あたしの友だちに、「サンタクロースなんていないんだ。」っていつている子がいます。

パパにきいてみたら、

「サンしんぶんに、といあわせてごらん。しんぶんしやで、サンタクロースがいるという

なら、そりやもう、たしかにいるんだらうよ。」と、いいました。

ですから、おねがいです。おしえてください。サンタクロースって、ほんとうに、いるんでしょうか？

バージニア・オハンロン

ニューヨーク市西九五丁目一五番地

バージニア、おこたえします。サンタクロースなんていないんだという、あなたのお友だちは、まちがっています。

きっと、その子の心には、いまはやりの、なんでもうたがつかかる、うたぐりやこんじょうというものが、しみこんでいるのでしょうか。

うたぐりやは、目にみえるものしか信じません。

うたぐりやは、心のせまい人たちです。心がせまいために、よくわからないことが、たくさんあるのです。それなのに、じぶんのわからないことは、みんなうそだときめているのです。

けれども、人間が頭で考えられることなんて、おとなのばあいでも、子どものばあいでも、もともとたいそうかぎられているものなんですよ。